

地震に負けず頑張っています!

地震に関わって～被災地訪問(ウルトラマン基金)による交流活動を通して～

倉吉養護学校 小学部主事 杉本 晃久
鳥取県中部地震が発生してから約1ヶ月後の11月18日に、本校では「ウルトラマン基金」の被災地訪問による交流活動が行われました。この「ウルトラマン基金」は、東日本大震災後、被災地支援のため、円谷プロ及び共同企業各社によって設立されたものです。

交流活動では、ウルトラマンの登場とともに大きな歓声があがりました。その後「ウルトラマン体操」を一緒にしたり、ウルトラマンの決めポーズを真似したりして交流し、最後には、ウルトラマンとの記念写真を撮り、握手会をしました。子どもたちは大喜びで、ウルトラマンから元気や勇気をもらい、笑顔が溢れる楽しい交流となりました。

今回の被災地訪問等を含め多くの方の支えに感謝し、これからも災害を乗り越え、今まで以上に笑顔で元気に学校生活を送るように、皆で頑張りたいと思います。



思い出に刻まれた音楽会

倉吉市立 明倫小学校長 生田 文子
音楽会前日に発生した鳥取県中部地震。体育館は避難所となり、余震が続く不安な中で、断水や寒さに耐え、共に助け合いました。そんな中で、延期していた音楽会を11日遅れで開催することができました。それは「練習を積んできた子どもたちのために」という避難しておられる方々のご理解とご協力があったことです。

サブテーマを「がんばろう明倫 つなごう絆」とし、今年限定の感動ある音楽会となりました。途中、避難者の方のハーモニカ演奏もみんなの心を打ちました。全校合唱「いつまでも伝えたい」の歌詞に、「今、ここにいることが当たり前だと思ってた。こんなにたくさんの方に守られていたなんて。」という一節があります。改めて、当たり前のことや日常のありがたさを感じています。「子どもたちの音楽によって、復興への元気をもらいました。音楽の力って素晴らしいですね。」そんな感想をいただき、皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。



地震に負けない「チーム倉農」

倉吉農業高等学校長 田中 正士
鳥取県中部は大きな地震のない地域と、安穩と過ごしていた自分をあざ笑うかのように、学校は震度6弱という大きな地震に見舞われました。校舎の至る所にヒビが入り、農業実習更衣室の屋根瓦は大きく崩れ落ちるなど、奇跡的に生徒や教職員に被害はなかったものの、自然災害の恐ろしさをまざまざと見せつけられました。図書館では蔵書のほとんどが書棚から飛び出し、また寮や農場を含めて校内の至る所でも物が散乱していました。そのときに力を発揮したのが学校のチーム力でした。24日は臨時休校にして、朝から全教職員で学校中の片付けと安全点検を行いました。書籍が散乱した図書館をテレビニュースで見て、「何かお手伝いできれば。」とボランティアを申し出てくれた生徒や保護者もありました。わずか一日でほぼ元の姿を取り戻し、翌25日から学校を再開することができました。みんなが丸くなった学校の復旧であり、まさに「チーム倉農」の一端を垣間見ることができました。

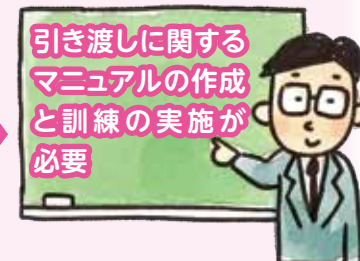


災害から児童生徒の命を守るために

各学校では、災害発生時に児童生徒の命を守るために教職員が行うべき必要な対応等が盛り込まれた「学校防災マニュアル」を作成しています。鳥取県教育委員会では、この度の「鳥取県中部地震」における学校現場の対応についての課題を洗い出し、対応等を検証し、得られた教訓等を現在作成中の「学校防災マニュアル(地震・津波災害)【参考資料】」に反映させ、各学校等での防災対策に生かしていきます。

学校に対するアンケートの結果より(一部抜粋)

- 問 児童生徒の引き渡しについて課題点を回答してください。
- 自動車での迎えが多く、大渋滞し混乱した。
 - 保護者に連絡がつきにくかったり、通学範囲が広く保護者が遠方から迎えに来なければならなかったりするなどの理由で、引き渡し完了までに多くの時間がかかった。
 - 予め保護者が決めていた者以外の方が迎えに来られて、対応に困った。
 - 引き渡し訓練を行っていなかったため対応が遅れ、引き渡し完了までに多くの時間を要した。
 - 兄弟姉妹の引き渡しと重なり苦労した保護者がいた。
 - 学校に長時間待機する場合があるので、備蓄品の整備が必要である。



鳥取県のグローバル人材育成の取組

鳥取県では、高校生の海外留学支援以外にも、地域にいながら幅広い国際感覚を身につけ、世界を視野に入れて活躍できる人材育成の事業を行っています。

スーパーグローバルハイスクール(鳥取西高等学校)

文部科学省から「スーパーグローバルハイスクール」に指定されている鳥取西高等学校では、生徒が主体的、協同的、探究的に学ぶ教育モデルの研究が進められています。様々な教科で、生徒が話し合いによって課題を解決して発表する、「アクティブ・ラーニング型」の授業が行われ、学びが深まっています。

「総合的な学習の時間」では、上級生と下級生が一緒になって、グループでの研究活動をしており、一部はオーストラリアへ研修に出かけ、現地でのインタビュー調査や、大学生との意見交換を行いました。学習のまとめとしての成果発表会では、生徒代表が英語でプレゼンテーションをしました。



グループで考えたことをポスター発表(鳥取西高)

本県は、豊かな語学力やコミュニケーション能力を身につけ、主体的、積極的に多様な人々や物事に関わり、新しい価値を創造できるグローバル人材育成のための取組を行っています。

グローバルリーダーズキャンパス

昨年7月に開講した、スタンフォード大学との共同事業「グローバルリーダーズキャンパス」では、インターネットで米国と結んだライブ授業が8回実施されました。

受講生たちは、事前に指示された英文テキストを読み、与えられた質問に英語で回答したのち、ライブ授業に参加し、質問や意見交換を英語でしてきました。

パソコンによるやりとりで最初は緊張していた生徒も、徐々に発言できるようになり、アメリカ文化や日米関係について、深く考えることができたようです。

県教育委員会では、これらの取組をもとに、グローバル人材の育成に、さらに努めていきます。



タブレット型端末でライブ授業受講中(青翔開智高)

鳥取県特別支援学校 技能検定開催! ～未来につながる第一歩～

平成26年度より特別支援学校高等部生徒が身に付けた知識、技能、態度等を一定の基準により評価し認定することで、働く意欲の向上と就労の促進を目指し、「鳥取県特別支援学校技能検定」を実施しています。今年度は平成28年10月13日(木)、14日(金)の2日間にわたり県立琴の浦高等特別支援学校を会場に開催しました。

実施種目は、新種目「喫茶サービス」に加え、昨年度から実施している「床及び机上清掃(マスター検定)」「床清掃(チャレンジ検定)」「じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃(マスター検定)」「じゅうたん床清掃(チャレンジ検定)」の5種目で行いました。



生徒の感想
僕は今年初めて技能検定に参加しました。参加した理由は少し興味があったからです。でも練習をしていくうちに本気で上の級をねらうようになりました。練習ではコードが幅木にかからないようにすることに気がつきました。「じゅうたん床清掃(チャレンジ検定)」

参加生徒数は、昨年の38名から64名に増加するとともに、清掃部門では1級を取得する生徒が昨年の15人から31名へと大幅に増加し、生徒の挑戦意欲やレベルの向上が感じられました。また、新種目「喫茶サービス」では残念ながら1級はできませんでしたが、生徒からは技能検定を通して学んだことを実習等で生かしたいといった前向きな感想が聞かれました。認定証授与の際「やった!」とつぶやく生徒、友だちとハイタッチをして喜ぶ生徒など生徒の達成感や充実感が感じられる技能検定となりました。



じゅうたん床清掃及びガラス・窓枠清掃 床及び机上清掃



喫茶サービス

私が技能検定でがんばったことは、1・2級を目標に練習をいっぱいがんばりました。本番はすっごくドキドキしたけどなんとかがんばりました。お客さんがきたときは、すっごく緊張して思うようにいかなくて結果4級になり少しショックでした。実習では喫茶店で働くので検定でやったことがいかせればいいなあと思いました。「喫茶サービス」

問合せ先 県教委特別支援教育課 電話 0857(26)7575 FAX 0857(26)8101

アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改善について理解を深めました (平成28年度鳥取県教育研究大会)

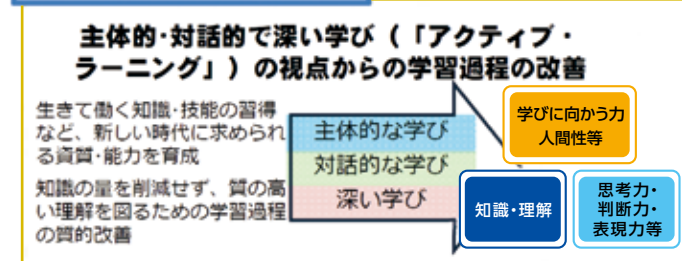
平成28年11月29日(火)、県内幼・保・小・中・高・特別支援学校の教職員をはじめとする学校関係者が参加して、鳥取県教育研究大会を開催しました。各校種における実践事例の発表等とおして、学びの質の向上、豊かな人間性や社会性の育成、安全・安心で通える園(所)・学校づくりなどの取組について研究しました。

特に、次期学習指導要領に向けて注目を集めている「アクティブ・ラーニング」について、東京大学 高大接続研究開発センター しろす 始教授を講師に迎え、理解を深めました。

※各学校では、相互に関わり合いながら主体的な学びが推進されているところですが、次期学習指導要領に向けて、子どもたちが「アクティブ・ラーニング」すなわち「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように、授業改善に向けた取組をより活性化することが求められています。



どのように学ぶか



白水教授の講演から

- 子どもたちが学校で得る知識と実生活を結びつけていくためには、話し合いをとおして考えをはっきりさせ、いろいろな考えを統合することが重要です。
- アクティブ・ラーニングは、ある授業の型のことではなく、子どもたちの質の高い深い学びを引き出すために、学習の在り方を見つめるものであるということを確認しましょう。
- 学習評価についても、「学んだ直後に穴埋め等で高い得点がとれる」ということに加えて「しばらく経ってから発展的問題に対して答えを考えられる」ということが重要になり、子どもたちに求める力が変わります。

各分科会では、実践事例の発表をとおして、学校全体でチームとして取り組む授業改善や接続を意識した校種間連携、学校不適応未然防止の取組の重要性について確認しました。

- 分科会I 授業改革
 - 「自考と学び合いを通して確かな学力を育み、生徒とともに創り上げる学習活動～教科会の強化と積極的な授業公開～」 鳥取市立中ノ郷中学校
 - 「自分の考えを豊かに表現し、かわり合いながら主体的に学ぶ授業をめざして～国語科のねらいにせまる話し合い活動を活性化させる授業づくり～」 米子市立義方小学校
- 分科会II 校種間連携
 - 「倉吉市の幼保小連携の取組について」 倉吉市教育委員会/倉吉市立上小鴨小学校
 - 「算数・数学における小中高の連携と授業改善をめざして～八頭ツリーの取組から～」 八頭町立郡家西小学校/八頭町立八頭中学校/鳥取県立八頭高等学校
- 分科会III 安心して学べる学校教育の推進
 - 「一人一人の読みの力を『育てる』そして『育てる』ために～T式ひらがな音読支援を活用した取組～」 鳥取市教育センター
 - 「プロジェクトアドベンチャー(PA)による「信頼関係」と「学びの環境」の構築～PAの考え方や手法を学校現場での仲間づくりや学習に生かすために～」 県立船上山少年自然の家

参加者の感想(アンケートから)

- 「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」に向け、必然性がある学び、教員が振り返ること、不断の授業改善をキーワードに授業スタイルを見つめ直し、よりよい学びにつながる授業づくりを行っていきたい。
- 教員一人一人の実践をより深化させていくのに、「チーム力」の大切さを感じた。



問合せ先 県教委高等学校課英語教育推進室 電話 0857(26)7959 FAX 0857(26)0408

問合せ先 県教委小中学校課 電話 0857(26)7915 FAX 0857(26)8170 http://www.pref.tottori.lg.jp/shouchuugakkouka/